

	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
4月	1,061	626	627	23	15	2,352	1,466	63	249	176	137	735	5,178
5月	932	504	569	27	5	2,037	1,660	43	183	140	127	492	4,682
累計	1,993	1,130	1,196	50	20	4,389	3,126	106	432	316	264	1,227	9,860

🔍 今月のレファレンス記録票から

分類	質問と内容
----	-------

I/E7 平成10(1998)年の市川市の建築紛争調停委員会の委員を知りたい。

『審議会等管理台帳[閲覧用ファイル]平成11年度』(市政情報センター1999)に同委員会の委員名簿がある。委員は5名で、任期は平成10年5月1日～平成12年4月30日。
なお、現在の委員は、『市川市附属機関等委員名簿』(市川市総務部総務課2018)にあり。

C10/W8 千葉日報社主催の千葉文学賞をまとめた作品集はあるか。

千葉日報社主催(千葉県・千葉県芸術文化団体協議会後援)の文学賞は、千葉文学賞と千葉児童文学賞、千葉随筆文学賞の千葉文学三賞があり、受賞作品は千葉日報の紙面に全文掲載される。2020年度の第64回千葉文学賞、第62回千葉児童文学賞、第15回千葉随筆文学賞の受賞作品全文は、『千葉日報』の2021年5月18日～20日にそれぞれ掲載された。最近の賞をまとめた本はないが、第27回(1984)～第32回(1989)の千葉文学賞の受賞作品をまとめた『千葉文学賞作品集1』(葉山修平/編 あさひふれんど千葉1990)が出版されている。

390.9 フランス海軍の水兵の帽子に赤いボンボン飾りがついている理由を知りたい。


図書館所蔵の資料からは確認できず、千葉県立図書館に協レファレンスを依頼したところ、インターネット情報源を紹介された。フランス海軍のウェブサイト(<https://www.etremarin.fr/qui-sommes-nous/histoire-et-culture-maritime> (フランス語) 2021.5.21確認)の「Anecdotes historiques et culture maritime」(「歴史的逸話と海事文化」の意)の2に、「Pourquoi un bonnet à pompon ?」(「なぜボンボン付きの帽子?」の意)として、ニット帽の編み目の仕上げ、船員が船外に落下したときに目立つ赤いマーカー、頭頂部の保護の3つの理由が記されている。

576.9 絵の具は誰が造り始めたのか知りたい。何かわかる資料はないか。

現在一般的に使われているチューブ入り絵具については、『色彩 色材の文化史』(フランソワ・ドラマール/ほか著 創元社2007) p.119に「1841年、アメリカ人の画家J・ゴフ・ランドは、豚の膀胱よりも手軽に調整済みの絵具を保存する方法として、錫の薄片でできたチューブの特許をロンドンで取得した。翌年、イギリスのウィンザー&ニュートン社がこの特許に変更を加え、ふたの部分改良したうえで、チューブ入り絵具を売り出した」との記述が確認できる。それ以前については、『平凡社大百科事典2』(平凡社1984) p.622「絵具」の項に西洋・東洋の絵具の歴史に関する記載が確認できた。

また、日本の場合は、『事物起源辞典 衣食住編』(朝倉治彦/ほか編 東京堂出版2001) p.37の絵具の項に「絵具の本体は顔料で、わが国の顔料の使用は、弥生時代にはじまり、古墳裏面へ続く

時代の遺跡からは多くの着色資料が出土しており、それは、(中略) 赤色 (水酸化鉄・一部に朱)、黄色 (黄色粘土)、緑色 (緑泥岩の粉末)、黒褐色 (マンガン鉱末)、黒色 (木炭末) など、水でこねて使っていたものであった。」との記述を確認できた。

 **G I V E U P !** ご存知の方はご教授下さい。

396.0 陸軍幼年学校が存在したのに、なぜ海軍幼年学校は設立されなかったのかを論述した文献はないか。

図書館所蔵の資料で調査、また CiNi で論文検索したが、該当するものはなかった。
『軍隊教育と国民教育 帝国陸海軍軍学校の研究』(高野邦夫/著 つなん出版 2010) の第二部「陸軍の教育」の p. 196 に「なぜ、幼年学校を設けたかの理由であるが、これは幕末以来、幕府をはじめ西南雄藩がつきあっていた当時の陸軍強国のフランス、ロシア、プロシア (オーストリア) の制度にならったものだといわれている。」と記載されている。一方、第三部「海軍の教育」の p. 361-362 には「戦力的にも陸軍が圧倒的に人力にたよっているのに対して、海軍は高度の科学・技術文明の所産である艦艇や飛行機なしには存在・活動し得ないので、人員も“少数精鋭主義”の名の下に平時はギリギリの人数でやっていかざるを得なかったのである。」等、陸軍と海軍の違いについての記述はあるが、幼年学校を設置しなかった理由は確認できなかった。

なお、海軍の教育としては、『図説総覧 海軍史事典』(小池猪一/編著 国書刊行会 1985) 第四部「海軍教育制度沿革史」(七)「海軍特別年少兵制度」の p. 229 に「長期にわたり且つ特別な教育を行うという海軍にとって画期的な教育制度」として設けられた「海軍特別年少兵制度」についての記載があり、志願者応募年齢は十四歳以上であった。

他にもこんな質問ありました (クイック・レファレンスから)

分類	質問	⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など
291.03	日本全国の主要な河川 (流域・長さ) が 1 枚で見られる地図はないか⇒『PREMIUM ATLAS 日本地図帳 新版』(平凡社 2014) p. IV-V。地図に主要な河川が掲載されており、長さランキング 20 までの河川については長さの掲載もあり。	
418.6	電卓の操作方法について書いてある本⇒『世界一やさしい電卓の教科書 1 年生』(脇田弥輝/著 ソーテック社 2019)、『電卓パーフェクト活用マニュアル 第 2 版』(平山紀美子/著 税務経理協会 2008) などを紹介。	
780.1	コアポール体操について載っている本を探している⇒コアポールとは自宅などでセルフコンディショニングを手軽に行う円柱状の器具で、ストレッチポールとも呼ばれている。『中・高校生のためのコアコンディショニング “ストレッチポール” でカラダ革命!』(日本コアコンディショニング協会/監修 ベースボール・マガジン社 2014) を提供。	
K653	まつぼっくりのかさは何故どのようにひらくのか知りたい⇒『探して楽しむドングリと松ぼっくり』(平野隆久/写真 片桐啓子/文 山と溪谷社 2001) p. 44-45 に「松ぼっくりの正体」として掲載あり。他に、絵本『びっくりまつぼっくり 幼児絵本ふしぎなたねシリーズ』(多田多恵子/ぶん 堀川理万子/え 福音館書店 2010)	
E	50 年くらい前に岩波書店から出版された「少年と白いロバ」という本を探している⇒書名では該当なし。男の子が白いロバと旅をする話で岩波書店は間違いない。『ツバメの歌 ロバの旅』(レオ・ポリティ/文とえ 石井桃子/訳 岩波書店 1954) を提供、探していた絵本とのこと。	